

# SNS リテラシー確認テストの開発

## Development of SNS literacy test

中村 達樹<sup>\*1</sup>, 藤堂 健世<sup>\*1\*2</sup>, 高橋 聡<sup>\*1</sup>  
 Tatsuki NAKAMURA<sup>\*1</sup>, Kense TODO<sup>\*1\*2</sup>, Satoshi TAKAHASHI<sup>\*1</sup>

<sup>\*1</sup> 関東学院大学 理工学部  
<sup>\*1</sup> College of Science and Engineering, Kanto Gakuin University  
<sup>\*2</sup> 東京工業大学 情報理工学部門  
<sup>\*2</sup> School of Computing, Tokyo Institute of Technology  
 Email: f20K6112@kanto-gakuin.ac.jp

**あらまし:** 情報通信機器の普及率が高まり、SNS を利用しコミュニケーションを取ることは一般化している。だが、多くの人は SNS を効果的に利用できるだけのリテラシーを備えられていないまま、SNS 上でリスクのある行動を取ってしまっている。その問題を解決するために、本研究では SNS リテラシー確認テストを開発し、テストを通じて SNS リテラシーを高める効果を検証する。

**キーワード:** SNS, リテラシー, テスト開発, ILAS

### 1. 研究背景

Social Networking Service(以下、SNS とする)の利用によるリスクを認識し、効果的に活用できるようになるには、論理的思考を働かせ、リスクを察知することができる能力などの SNS 特有のリテラシーが必要になる<sup>(1)</sup>。だが、多くの人が SNS を安全に扱うだけのリテラシーを持たないまま利用している。それは、総務省の調査の項目のインターネット利用時に不安を感じる人の割合を見ると感じ取ることができる<sup>(2)</sup>。

SNS のリスクは無数にあり、さらに、SNS の種類の増加などによってその数を増やしている。SNS のリスクを避けるためには、既存の事例だけでなく、自分でリスクであると判断できる能力が必要だ。そのため、SNS リテラシーを獲得するための過程には実際に SNS を利用しながら学ぶことが必要になると考えられる。しかし、SNS リテラシーに不安を抱えたまま利用することはリスクにつながる。

そこで本研究では、実際に SNS を利用している画面に似た画像をテスト受験者が分析することで、SNS におけるリスク発見能力を獲得できるテスト教材を開発した。

これにより、SNS 利用によるリスクを減らしたまま、SNS リテラシーを身に着ける補助ができると考えた。

### 2. SNS リテラシー確認テストの開発

#### 2.1 本テストの問題の構成について

インターネットリテラシー向上のためのテスト教材の開発の実例について、総務省が高校生向けに行っている ILAS(Internet Literacy Assessment Indicator for Students)という調査がある<sup>(3)</sup>。本研究ではこの ILAS を参考に、受験者の SNS リテラシーを測る。

ILAS ではインターネットのリスクを 3 つの大分類、7 つの中分類に整理している。

本研究ではこのリスク分類を元に、7 つの選択肢

のあるテスト問題を開発する。

分類分けを行うことで、SNS でどの様な行動を行うとどの分類のリスクに繋がるのか分かりやすくし、またどの能力が自分には足りないのか認識できるようにしたいと考えた。

よりテスト受験者がリスク分類の内容が分かりやすいよう、本研究では ILAS のリスク分類をそれぞれ以下の表 1 のように作り替えた。

表 1 本テスト問題での表現

ILAS のリスク分類	本テストでの表現
違法情報リスク	法律違反の恐れ
有害情報リスク	有害情報への認識
不適切接触リスク	SNS でのコミュニケーション能力
不適正取引リスク	SNS を使った取引の知識
不適切利用リスク	SNS の扱い方について
プライバシーリスク	プライバシーについて
セキュリティリスク	セキュリティ対策

問題を解答するためには、テスト問題画像の中の会話、写真、プロフィールなどの情報からテスト受験者がリスク要素を発見し、どのリスク分類に当てはまるのか判断することを必要にする。こうしたプロセスから、自らの SNS の使用シーンを客観視しやすくし、論理的思考を働かせ、SNS のリスクを認識しやすくする狙いがある。

問題には解説を付けるようにし、リスク発見までの情報やプロセスを提示する。これは、テスト問題の内容に説得性を持たせることと、テスト受験者にリスク内容への知識を深めることを目的としている。

7 つの選択肢のリスク行動について、架空のユーザーが主に以下の表 2 のような行動を行うことでテスト受験者はリスクを特定できるようになっている。これらは、インターネットトラブルの事例を参考に、より実際に SNS を使用している状態を認識しやす

いよう独自に問題を開発した。

表2 問題解答につながるリスク行動の例

本テストの選択肢	リスク行動の例
法律違反の恐れ	著作権侵害の恐れのある投稿
有害情報への認識	未成年に対するアダルト情報の拡散
SNS でのコミュニケーション能力	匿名 SNS への不理解
SNS を使った取引の知識	フィッシングなどのネット詐欺
SNS の扱い方について	インターネットのマナーについて
プライバシーについて	顔写真や風景などからの特定
セキュリティ対策	URL への知識

## 2.2 本テスト問題の作成方法とテストの流れ

本テストは、テスト受験者が画像を見て、7つの選択肢の内どのリスクに当てはまるのか推測し解答する選択形式の問一答テストとなる。

テスト問題画像には主に、日本人の利用率が高い SNS である<sup>(4)</sup>LINE, Twitter, Instagram を使用していることを認識できるものを扱う。架空の人物のプロフィールや他のユーザーとの会話などの情報を載せ、7つの選択肢のうち必ずどれか一つには当てはまるリスクを発見できるようにする。

解説は、問題画像の中のリスクだと判断できるポイントと、それがどのようなリスクに繋がるのか考えるプロセスを説明する。この説明から、テスト受験者は SNS を活用するための論理的思考力が身につけているか確かめられるようにする。

テストは計 30 問を出題することを予定している。この問題数で SNS リテラシーが向上できるのかアンケートを実施することで確かめたいと計画している。

SNS リテラシー向上に関するアンケートでは、テスト前後で SNS を扱う上での論理的思考力が身についたかという点について自己評価をしてもらう。これにより、本研究の目的を達成することができているかについて調査をしたいと考えている。

本テストの問題画像の実例を図 1 に示す。画像は Twitter の利用シーンを想定している。画面作成にはスマートフォン向けアプリの「ツイメモ-SNS 風メモ帳」(Ver.5.5.4)を利用した。

投稿した内容から、画像解析などで猫の個体を識別され、利用した店舗の特定ができてしまうこと、誰でも閲覧できる場で実際に会う約束をしてしまうことで、主に待ち伏せなどの被害にあいやすくなるなどのリスクを発見できるようにしている。これらは SNS の匿名性を脅かし、プライバシーの侵害を引き起こす恐れがある。このことから、“プライバシー

について”のリスクがあることが判断できるようにした。



図 1 問題画像の実例

## 3. まとめ

本研究では、SNS におけるリテラシー向上に必要な要素を調査し、それを活用し SNS を活用するために必要な能力を身につける補助ができるテスト教材の開発を行った。

今後は、関東学院大学の SNS リテラシー学習希望者に向けて本教材を用いた学習を行ってもらい、SNS リテラシー理解の促進に寄与できたか確かめる検証を予定している。

### 参考文献

- (1) 玉田和恵：“Society5.0 時代に対応した情報モラル問題解決力の育成 ~人工知能と個人情報の活用を思考するゲーミング教材の開発~”, 江戸川大学の情報教育と環境, Vol. 19, pp. 33-40 (2022)
- (2) 総務省：“令和 4 年版 情報通信白書 | データ集 (第 3 章第 8 節)”, <https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r04/html/nf308000.html#d0308140> (参照 2023. 4.30)
- (3) 総務省：“【特集】ILAS | 安心・安全なインターネット利用ガイド | 総務省”, [https://www.soumu.go.jp/use\\_the\\_internet\\_wisely/special/ilas/](https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/special/ilas/) (参照 2023. 5.4)
- (4) 総務省：“報道資料 | 「令和 3 年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書」の公表”, [https://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01iicp01\\_02000111.html](https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01iicp01_02000111.html) (参照 2023.5.19)
- (5) 佐々木成三：“元捜査一課刑事が明かすスマホで子どもが騙される”, 青春出版社, 東京 (2021)